

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年11月07日

計画の名称	三刀屋木次 I C 周辺地区都市再生整備計画												
計画の期間	平成29年度 ～ 令和03年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	雲南市												
計画の目標	当該地区は市の中心に位置し、中国横断自動車道の三刀屋木次 I C に隣接しているため商業施設の集積を誘導する可能性が高い区域であるが、市内の消費総額の内約37%が隣接する松江市・出雲市へ流出している状況であり、本地区を中心とした中心市街地エリアの賑わい再生が喫緊の課題である。このことから、平成28年11月29日認定の中心市街地活性化基本計画に基づき、道路、広場、公共交通等の都市基盤施設の充実を図り、民間事業による老朽化した商業施設の改修、個性的で専門性の高い商業施設の集積、ビジネスホテル整備事業と協働することで、賑わいと魅力あふれる市の顔を実現したい。												
全体事業費 (百万円)	合計 (A+B+C+D)	434	A	434	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標 (定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H27		R3
1	都市再生整備計画区域内において、各種都市基盤施設の充実を図り、民間事業との協働を行うことでイベント年間入込客数を70%以上増加させ10,000人/年とする。 イベント(まめなカー市)開催により、市街地への来訪者(交流人口)の増加を目指す。	5800人/年	人/年	10000人/年
2	中心市街地エリアの居住人口について人口増加傾向を維持する。 市街地整備による居住環境の向上により、中心市街地の人口増加傾向維持を目指す。	2051人	人	2094人
3	中心市街地の賑わい満足度を約6%上昇させ53%とする。 市街地整備により拠点性を高め、利便性・快適性の向上を図ることで、来訪者の満足度向上を目指す。	48%	%	53%
4	都市基盤整備に併せ、中心市街地エリアへの公共交通計画を見直すことで公共交通ネットワーク満足度向上を約4%向上させ49%とする。 中心市街地と周辺地域を結ぶデマンド型乗合タクシー等を充実させることで、利用者の満足度向上を目指す。	45%	%	49%

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H29	H30	H31	R02	R03				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	雲南市	直接	雲南市	—	—	三刀屋木次IC周辺地区都市再生整備計画事業	地域生活基盤施設等 A=9ha	雲南市	■	■	■	■	■	434		—	
												小計						434		
											合計						434			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
雲南市都市再生整備計画事業評価委員会要綱に基づき、事後評価委員会を開催した。	令和4年2月21日
	公表の方法
	ホームページで公表する。

○事業効果の発現状況

<p>定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事後評価時点でまめなか広場の整備が未完了であることから、会場の確保や日程調整に苦慮し、開催回数が目標開催回数（年5回）を下回っており、年間入込客も目標に達していない。 ・市全体で人口減少が進んでおり、本計画の事業のみでは目標まで人口を増加させることが困難であった。しかし、中心市街地の人口減少率は市全域の人口減少率に比べて緩やかであることは評価できる。 ・中心市街地の賑わい・交流の満足度は平成28年度に尾道松江線の全面開通や本事業外のハード整備によって大幅に向上した。その後も、SAKURAマルシェ（民間商業施設）整備事業による新規商業店舗建設や元気パーク、まめなか広場等の賑わい・交流空間の整備により、中心市街地に対する期待感が高まり、満足度が維持されている。 ・公共交通ネットワークの満足度は平成28年度に尾道松江線の全面開通や本事業外のハード整備によって大幅に向上した。その後も、公共交通の結節点である下熊谷バスセンターに近接する商業集積エリアの一体的整備が進み、また、民間商業施設前にデマンド型乗合タクシー待合所が整備されたことによって、公共交通を利用しやすい環境が形成され、満足度が維持されている。
<p>定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・IC周辺かつ、公共交通の結節点である下熊谷バスセンターに近接する利便性の高いエリアに中心市街地の賑わい拠点が整備された。 ・市道要害6号線の整備が完了し、商業集積エリアへのアクセス道としての安全性・利便性を高めている。 ・元気パーク整備事業はコトリパークとして令和元年12月に供用開始し、子どもから高齢者まで幅広い年代の憩い・交流の場として利用されている。 ・中心市街地全体としては、空き家・空き店舗の再生に取り組んでいる。令和2年度には木次駅前商店街に空き家を改修した起業家のインキュベーションオフィス、コワーキングスペースとして利用できるオトナリが開設され、空き家・空き店舗情報の発信を行うことで、交流人口の増加・新規出店の促進に寄与している。また、令和4年にはWeb広告会社が中心市街地の空き店舗にサテライトオフィスを開設予定であり、新たな雇用の創出と地域経済の発展につながると期待される。

○特記事項（今後の方針等）

<ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備により地区の基盤が整いつつあるため、今後は活用・運営（ソフト面）での工夫が必要。 ・市外への購買力の流出を抑制するため、定期的に市民の購買行動を調査し、改善策を検討する。 ・本事業で整備されたハードを活用した、中心市街地の魅力の発信に取組む。 ・市が実施している定住促進事業の情報発信を強化する。 ・デマンド型乗合タクシーの一層のPR強化を行う。 ・本事業で整備された公園や広場を活用し、地域住民とホテル宿泊者が交流できるイベントを実施する。
--

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	イベント（まめなカー市）における年間入込客		
	最終目標値	10000人／年	事後評価時点でまめな広場の整備が未完了であることから、会場の確保や日程調整に苦慮し、開催回数が目標開催回数を下回っており、年間入込客も目標に達していない。
	最終実績値	1974人／年	
2	中心市街地の人口		
	最終目標値	2094人	市全体で人口減少が進んでおり、本計画の事業のみでは目標まで人口を増加させることが困難であった。
	最終実績値	2007人	
3	中心市街地の賑わい・交流の満足度		
	最終目標値	53%	平成28年度に尾道松江線の全面開通や本事業外のハード整備によって大幅に向上し、SAKURAマルシェ整備事業による新規商業店舗建設や元気パーク、まめな広場等の賑わい・交流空間の整備により、中心市街地に対する期待感が高まり、満足度が維持されている。
	最終実績値	61%	
4	公共交通ネットワークの満足度		
	最終目標値	49%	平成28年度に尾道松江線の全面開通や本事業外のハード整備によって大幅に向上し、公共交通の結節点である下熊谷バスセンターに近接する商業集積エリアの一体的整備が進み、また、民間商業施設前にデマンド型乗合タクシー待合所が整備されたことによって、公共交通を利用しやすい環境が形成され、満足度が維持されている。
	最終実績値	51%	